

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

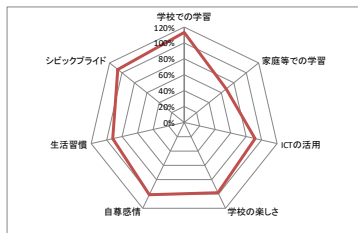
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	日々の学習態度から、全体的に学習意欲は高く、前向きに取り組む様子が伺える。 自分の意見を文章に表出したり、議論したりすることへの抵抗感が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	情報と情報との関連付けの仕方・図などによる語句と語句との関係を理解し使うことができるかどうかとみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の仕方を考えたりすることができるかどうかとみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	日々の学習態度から、全体的に学習意欲は高く、前向きに取り組む様子が伺える。 学習課題に取り組む中で、よりよい解法を追及することへの抵抗感が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	球の直径の長さや立方体の一面の長さの関係を捉え、立方体の体積の式を求めることができるかどうかとみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないかどうかとみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
「家庭学習に満足しているか」「学校の生活のすてきな瞬間に満足しているか」との問いに対して、約90%の児童が肯定的に回答している。
「将来人の役に立つ人間になりたいか」との問いに対して、95%を超える児童が肯定的に回答している。
・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と感じる授業にすることが必要である。
・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、より細やかに個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。
・「学校読書週間」や「読み聞かせボランティア」の活用など、児童の読書習慣

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・児童が主体的に日々の学習に取り組めるような学習材を精選し、日々の授業実践に生かす。

・児童が自分の考えを表出したり、互いの意見を出し合う場を増やすことや、学んだことをアウトプットする機会を増やす。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習に対する意識が低いことから、日々の宿題だけに終わらない取組を検討していきたい。